

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 三苦駅前		
所在地	〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦4丁目8番1号	092-410-7233	
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果確定日	平成25年02月07日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年01月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

高齢者複合施設の2階に2ユニットがある。南北に分かれているため、南ユニット、北ユニットと名付けている。併設施設には1階に小規模多機能型居宅介護、3階に有料老人ホームがある。定員9名の各ユニットに男性3名女性6名と南北同じ比率で入居されており、全館通しての特徴で男性のご利用者が他の施設に比べ多い比率となっている。ユニットそれぞれに特色があり雰囲気も違い生活されている方々の個性が出ている。複合施設のため年中行事を合同で開催することも多く「秋祭り」「餅つき」などは大勢で賑やかに開催している。毎月のレクリエーションとして「誕生会」「外出」「外食」などを取り入れ季節感を味わいながら楽しく生活して頂ける様努めている。また、日々の生活も今までの生活歴を大切に役割を持った生活が継続出来るよう支援している。原土井病院のグループ施設で協力医療機関とし連携を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「三苦駅前」は、利便性の良い西鉄貝塚線沿いに、3階建て複合型福祉施設の中の2階に位置し、2ユニットのグループホームである。利用者や職員は、買い物や散歩、廃品回収等を通じて地域に溶け込み、保育園児や老人クラブの訪問、3事業が共催の秋祭りに利用者家族や、地域住民の参加があり、活発な交流が始まっている。利用者の健康管理は、母体医療法人による、24時間安心して任せられる体制と、管理者や職員の細やかな見守りで、充実した医療連携が構築されている。また、運営推進会議には家族の参加が多く、活発な意見が出され、家族と事業所の信頼関係は深く、気楽に家族の悩みや心配事が話し合われ、利用者が安心して、地域の中で暮らし続けるための支援体制が確立されているグループホーム三苦駅前である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果 (南ユニット)

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分ではないが共有し実践できるよう努めている。	「高齢者の視点に立ったチームケアを通じて、日本の高齢社会に貢献します」という法人理念を掲げ、「職員のベースではなく利用者のベースで」「業務優先ではなく、相手に合わせてゆったりしましょう」と管理者は職員と繰り返し話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの実践を目指している。	理念をより身近なものに感じられるよう、グループホーム独自の理念を、職員全員で意見を出し合って作成し、日々の介護の中で、迷ったり悩んだりした時、理念に立ち返るような取り組みを期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域の商店での買い物や散歩に行くことや近所の美容室を利用している。また、地域の保育園児、老人クラブの訪問など交流をしている。	子ども会の廃品回収や地域の清掃活動に参加したり、近所での買い物、美容室の利用、散歩時の挨拶等、少しずつ地域との交流が始まっている。また、秋祭りに地域代表を招待したり、老人クラブの訪問もある。特に、保育園児との2ヶ月毎の交流(歌とけん玉)は、利用者が一番の楽しみである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	協力医療機関である原土井病院の副理事長より「認知症について」の勉強会の機会を設け、地域の皆様にも参加して頂いた。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動報告、入居状況等を毎回報告している。参加して頂いた皆様からは意見、要望、アドバイスなどを頂戴し今後の改善点とし、地域の情報なども町内の方々より教えて頂く場となっている。	会議は2ヶ月毎に併設の小規模多機能と合同で開催し、各委員から活発な意見が出され、特に家族の参加が多く、家族の不安、悩み、要望等が出たり、内容の充実を図るため、参加委員からの「認知症の勉強会を」と言う声に応え、母体医療法人の医師による講演を実施し、参加委員からの意見、要望を運営に反映できるように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告時、運営推進会議で連絡や報告を行っている。また、介護保険関係の申請時などで区役所を訪問し挨拶、報告を実施している。空室状況の連絡なども随時行っている。	行政担当窓口へ事故報告や困難事例について報告を行ったり、アドバイスをもらう等、少しずつ連携が始まっている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情や取り組みについて理解してもらい、更なる関係強化に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関は日勤時は開錠しており自由に出入りすることができる。身体拘束ゼロマニュアルを作成し職員全員がいつでも目にするようにしている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、勉強会を通じて職員間で確認を行い、言葉の拘束も含め、「拘束」が利用者にも与える影響を理解し、拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。また、玄関の自動ドアを改良し、安全で安心して利用出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	福岡市開催の研修に参加した職員が報告書やミーティングにより伝える機会を設け他職員にも周知している。職員間でも日頃より言葉遣いなどを意識するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者がおられ司法書士(後見人)の面会もあっている。職員に制度の必要性の理解はあり研修の参加は実施している。	現在3名の制度利用者がおられ、外部研修を受講し、内部で資料を回覧している。また、運営推進会議時に、地域包括支援センター職員から家族に向けて、制度についての話を頂く等、制度の理解に向けての取り組みを行い、利用者や家族が制度を必要とする時、いつでも支援出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を読み合わせ内容について疑問や質問を受け説明し、理解して頂けるよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話、面会時に意見、要望を尋ねている。利用者への食事アンケートを実施し、アンケート結果を職員に報告した。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、意見や要望が出しやすい体制をとっている。また、家族の面会時や電話連絡、運営推進会議の時に、家族と話す機会を作り、利用者や家族の要望を積極的に聴きだし、ホーム運営に反映させる取り組みがある。「刺身、鍋が食べたい」等の利用者の希望や、「もっと外出させて欲しい」という家族の要望にも、職員間で利用者本位に検討しながら実施している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで出た意見や提案は検討事項とし反映し改善している。また、個々に出た意見も改善できる部分は考慮している。	職員会議は、毎月1回、その日の出勤者が参加し、就業時間内に実施している。出された意見を記録した議事録を職員全員が閲覧し、情報の共有化を図っている。また、会議に出席出来ない職員からは、事前に要望、意見を聴き取り、全員参加の会議として、出された意見は出来るだけ反映させる努力をしている。	職員全員が顔を合わせて行う職員会議を年に数回でも開催し、職員のチームワークや連携を強化するための取り組みを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績が反映されるよう考えられ毎年昇給が実施されている。職員が働き易く長く努めて欲しいと希望している。		
13	9	人権尊重 法人代表及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については性別や年齢にはこだわらず募集、採用している。一人一人の得意な部分が発揮できるよう努めている。	職員の採用は、年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、意欲的で健康な方を優先している。また、園芸、編み物、裁縫、絵等、職員の特技や技術を活かし、生き生きと仕事出来る職場環境を目指している。職員の休憩室やロッカーを整備し、「休み時間が取れない」という職員の声に応え、交代で声を掛け合い、少しずつ休憩時間を取るよう取り組んでいる。	
		法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「利用者の立場になって考える」ことを大切にしている。羞恥心への配慮など、場面場面での対応が教育の場となっている。	外部、内部の研修は実施していないが、管理者がミーティングで「業務優先ではなく、利用者優先で」と話し、利用者の人権を尊重するための介護の在り方等について常に説明をしている。また、介護中に起こる多様な出来事に対して、その都度職員と話し合い、注意を促す事もある。	行政主催の外部研修や人権週間等の行事に参加し、人権問題を学習し、報告会を兼ねて職員全員に理解してもらい、利用者の人権を尊重する介護サービスの更なる提供を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修へは勤務の状況に合わせ参加できるよう努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会への参加がまだ出来ておらず同業者との交流機会はまだ作れていない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との面談、担当ケアマネ、ソーシャルワーカー、看護師等からの情報を得て関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時点で不安、悩み、問題点などを聞き取り、入居決定時に要望、希望などをより細かく聞き安心して頂ける関係づくりを心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態を考えながらサービス開始時期や落ち着ける場所の選択を他のサービス利用も視野に入れ考えるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴を大切に、その方の出来ることを見極めながら出来ることを継続していく支援に努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出、外泊などで協力して頂きご家族との関係も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のサービス事業者の訪問やご近所の方の面会など馴染みの方々が来られ一緒に過ごされている。	遠方の友人、知人や、近所の人、職場関係の方等、多くの馴染みの方の訪問があり、利用者の喜ぶ笑顔が印象的である。職員は、来訪者が訪問しやすい雰囲気作りとお茶等の心配りで、出来るだけ来訪者が訪問しやすいよう支援をしている。また、入居前に利用していたデイケアを訪ねる等、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな方へは職員が個別に関わり孤立しないよう他者との関係構築に努め、利用者同士の雰囲気を読み取りながら支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療により病院入院で退去となられた方などをお見舞いに行き状態観察や必要であればご家族とも連絡を取り関係を継続していた。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分ではないと思うが本人、ご家族の意向を確認しながら希望に添うように努めている。	食事に関してはアンケートを実施し、利用者が何を食いたいかを把握し、行事を利用して、刺身や鍋等の提供の方法を職員間で検討し、実現している。また、日常の会話や入浴時に1対1になる時間を大切に、職員は、利用者の意向、要望を聞き取っている。「自宅に帰りたい」「に行きたい」等の要望に対しては、家族の協力を得て、利用者の希望に応える個別の支援を実践している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネ、ご家族や関係者の方より聞き取り情報収集を行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、介護日誌、観察記録、バイタル測定、言動観察などを通し職員全員で把握できるよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に入居者全員の支援内容を話し合い、ご家族面会時に希望・要望を尋ねながらケアプランに活かすよう努めている。	ホーム独自の「グループホーム生活援助計画実行及び評価表」を作成し、計画がどこまで実行されているか、職員間で毎日の評価と月の評価を行い、利用者や家族の要望と合わせて、6ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の急変時や重度化に備え、家族と連携し、その都度、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用しケアの方法や実践の見直しがあれば職員全員で情報を共有し把握に努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自宅に帰りたい」とご夫婦で入居されている方の帰宅計画を立て何度かご自宅のマンションと一緒に訪問し、ヘルパー派遣の支援などを行った。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設隣の畑を地主様から借用し、野菜作りに取り組んだ。畑仕事ができるご利用者と職員と一緒に作業し収穫した野菜は食事提供、花はテーブルに飾りデッサンされる方もおられた。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診日は事前に連絡し、主治医から説明を聞かれたいご家族には往診日に立ち会い説明を聞いて頂ける体制をとっている。また、ご家族による受診の方には必要に応じ看護師より状態変化などを伝えるよう努めている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医と協力医療機関の選択をしている。協力医療機関による月2回の往診と24時間の医療連携体制で、利用者の健康管理は充実している。また、管理者やケアマネジャー、介護職員、看護師の細やかな見守りと、利用者や家族に対する優しい心遣いが随所に見られる。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りに看護師も参加し状態把握に努め、処置が必要な時には連絡を取り実施している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	申し送りに看護師も参加し状態把握に努め、処置が必要な時には連絡を取り実施している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを実施するケースがあり、ご家族、医師、看護師、介護職での話し合いの機会をもったが治療を必要とされる状態になり実現はしなかった。	利用者の重度化が進む中で、ホーム独自の看取りについての指針を作成し、利用者、家族の希望を聴き、医師、看護師、職員間で検討し、ホームで今、出来る事、出来ない事を確認しながら、実現に向けた取り組みがある。職員間のチーム介護に向けての取り組みや研修を行う等、看取りに向けて職員の質の向上に取り組んでいく事を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講し、当施設内でも消防署を招き講習会を実施した。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に全館合同での避難消防訓練を実施している。	年2回、消防署の協力と参加を得て、併設事業所と合同の避難訓練を実施している。3階建ての2階に位置し、利用者の救助方法や避難場所の確保等、関係者と話し合い、事業所間の職員との連携を密にしてマニュアル化する事についても検討を始めている。	非常災害時に備え、夜間を想定した訓練、地域住民の協力と参加を得ての避難訓練の実施と、非常時における電気、水道、ガスが使用出来ない場合を想定し、非常用食料、飲料水、非常用持ち出し備品、利用者の情報ファイル等を準備される事が望まれる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意し合うよう気をつけ、利用者の尊厳を守り、優しい声かけやさりげない見守りで対応している。	職員は、利用者を敬愛し、家族のような関係の中で、馴れ合いにならないように職員間で注意し合いながら、優しい言葉かけや、プライドを傷つけない介護サービスを提供している。また、個人情報の記録は、外部から見えない場所に保管し、職員の守秘義務に対する心構え等、常に話し合いを行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなど好みがあり交われない方もいるのでご自分が好きな事をして頂いている。しかし孤立されないよう配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、個人のペースや希望を大切に支援するよう心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った同じ衣類を毎日着用される方は、クローゼットに色々な衣類が入っていることを伝え着替えをされる支援をしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事提供をしていたので、食材の準備などできる所は手伝っていただき一緒に行っていた。	食事は職員の手作りで、ホーム畑で収穫した野菜等を利用して、利用者に皮むき等手伝ってもらいながら実施していたが、味の均一化と職員の負担を減らすため、12月より配食サービスを利用している。誕生会や行事の時には利用者に何が食べたいかを尋ね、手作りの料理を提供する等、食事を楽しむ事が出来るよう努力している。	配食サービスの提供に対して、食事委員会で検討はされているが、現在毎日の検食は行われていない。職員が交代で検食し、利用者にとって一番の楽しみである食事の質の向上に繋げる取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		<p>栄養摂取や水分確保の支援                      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量を記録し状態把握に努め                      食事量の減少などが観られれば補助食品での対応などを実施している。</p>		
44		<p>口腔内の清潔保持                      口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの実施、声かけを行っている。また、状態低下により口腔ケアが不十分な方などは訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
45	19	<p>排泄の自立支援                      排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄表の活用を行いながら、レベル低下が観られる方には支援方法を検討する、変更する等し対応をしている。</p>	<p>職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、利用者の行動、サインを見逃さないように努め、日中は出来るだけトイレでの排泄支援を実施している。職員は、排泄についての外部研修を受講し、出来るだけオムツの使用量を減らすための方法等を学び、少しずつ成果が現れている。</p>	
46		<p>便秘の予防と対応                      便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>できるだけ便秘薬を使用しないように適度な運動、乳製品、黒ごまきなこ摂取などの工夫をしている。</p>		
47	20	<p>入浴を楽しむことができる支援                      一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっているが希望や必要に応じて変更し対応している。</p>		
48		<p>安眠や休息の支援                      一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の体力や生活習慣に応じ、臥床時間を設ける、休息するなど対応し夜間の安眠につなげている。</p>		
49		<p>服薬支援                      一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書はご利用者カルテにファイルし全職員が把握できる状態となっている。また、薬の変更があった時にはその都度連絡し把握に努めている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳準備、後片付け、洗濯物干し・たたみなど主婦としての役割を継続されている。また、達筆な方にはお品書きをお願いしホールに掲示している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときは近所へ買い物に行く、散歩するなど支援している。また、月1回程度の外出レクで夕食、コスモス見物などを企画、実施している。	天気の良い日の散歩や買い物、毎月行われる外出、夕食レクレーション等、利用者の生き生きとした暮らしを支援するため、職員の努力が続いている。また、隣の畑に水仙とパンジーを、ベランダにチューリップの球根を植え、その成長を観察する事も利用者の大きな楽しみになっている。利用者の希望を聴き、家族の協力を得て、普段行けない場所への外出の支援にも取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により小銭程度を所持されている方やご自分で支払いたい方は自己管理で現金を所持されている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に使用、手紙のやり取りも自由に行えるよう支援し投函を希望されるときには葉書や手紙を預かり職員が投函している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭気への配慮、安全な導線確保に努め、光はカーテンや蛍光灯で調整している。季節感を出すために季節に応じた貼り絵、飾りを行っている。心が和むよう食卓に花を飾り楽しんで頂いている。	3階建てビルの2階部分に位置し、真横に西鉄電車が並行して走る姿を見るのは利用者の楽しみの一つである。長方形の広々とした明るいリビングルームは、利用者が一日の大半を過ごす場所として、一人ひとりが落ち着いて穏やかに暮らせる共用空間である。また、壁には、季節毎に利用者や職員の作品や記念写真を掲示し、季節感を味わってもらえるような家庭的な環境作りに取り組んでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分が好きな場所で過ごして頂ける様に配慮している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいようご家族と話され、使い慣れた物や壁飾りなどで個性ある居室作りとなっている。	居室は、洗面所とクローゼットが備えつけられ、掃きだし窓で室内は明るい。利用者が使い慣れた家具や小物、家族の写真、大切にしている物等を、家族の協力で持ち込んでもらい、自宅と違和感のない居室となっている。各居室入口にはそれぞれに暖簾が下げられ家庭的な雰囲気である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁、トイレ、脱衣室、浴室に手すりを設置し安全な移動を支援し、トイレはわかりやすい表示としている。		